焼　　岳

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図１）

18 日未明に焼岳近く（高山市奥飛騨温泉郷一重ヶ根）の住民が、「ドン」という音を２回聞き、同地区のテレビ共聴組合から配信されている国交省設置の監視カメラ（焼岳南西斜面）の映像で「赤い光」がゆらゆらしているのを見たとの通報がありましたが、19日に行った上空からの観測（国土交通省北陸地方整備局の協力による）では、焼岳の噴気量やその噴出状況、噴気孔の位置などに特段の変化は認められず、全体として従来と同様な噴気活動が続いていました。

・地震や微動の発生状況（図３）

焼岳付近を震源とする地震の発生回数は少なく、地震活動は静穏に経過しています。
火山性微動は観測されませんでした。

図１　焼岳　南西斜面の噴気（岩坪谷噴気孔）の状況

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 20 年１月分）は平成 20 年２月７日に公表する予定です。
※この資料は気象庁のほか、京都大学、名古屋大学および独立行政法人防災科学技術研究所のデータ等も利用して作成しています。
本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

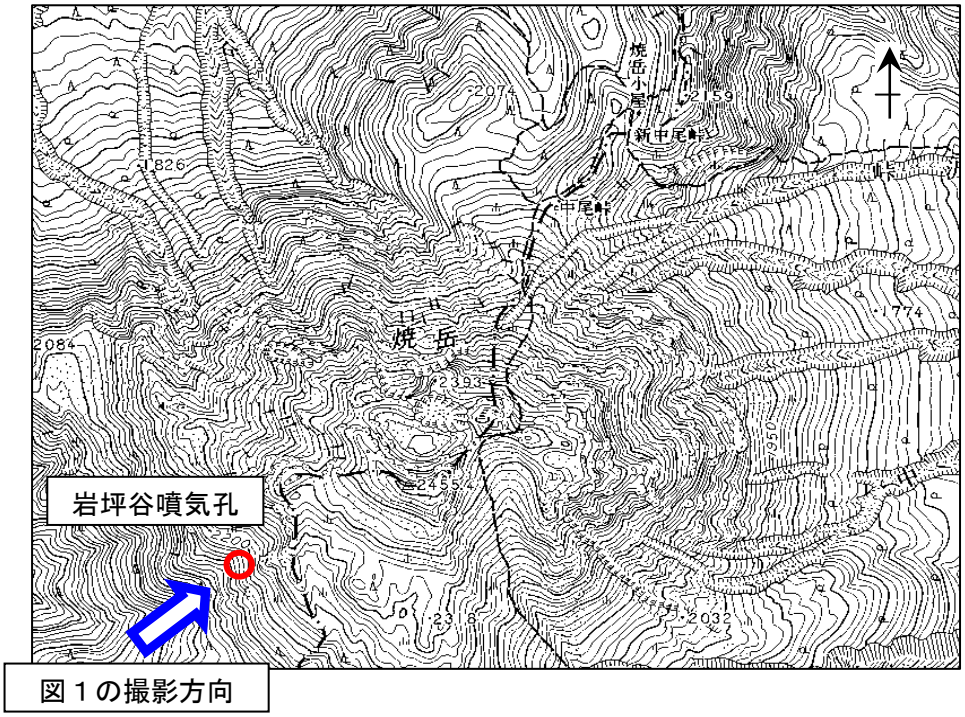

図２　焼岳　12 月 19 日に上空からの観測を行った噴気孔の位置

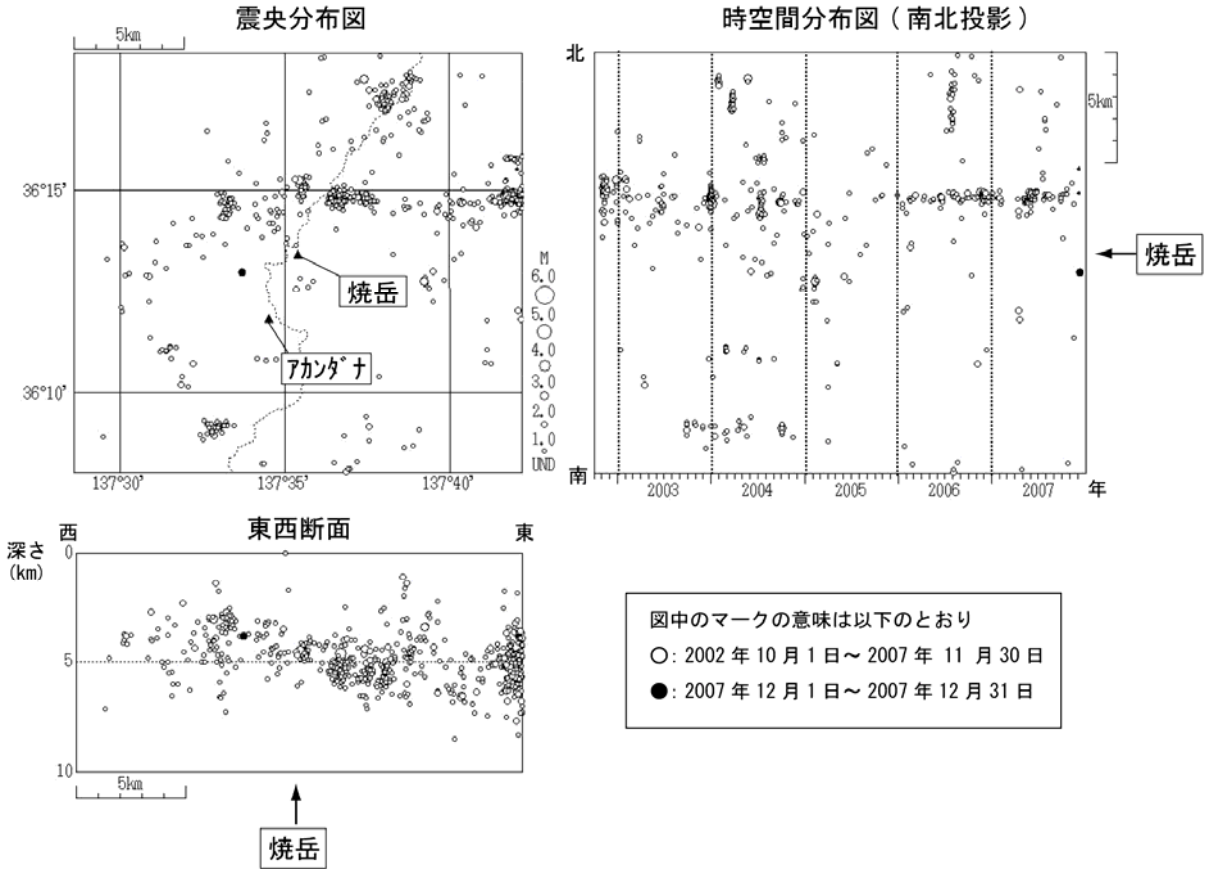

図３※ 焼岳　山体及びその周辺の地震活動（2002 年 10 月 1 日～2007 年 12 月 31 日）

M（マグニチュード）は地震の規模を表します。図中の震源要素は一部暫定値で、後日変更することがあります。

焼岳